



群馬県コンクール 金賞

おばあちゃんのおむすび

高崎市立佐野小学校 2年 上 田 伶

ぼくは、おばあちゃんが作ったおむすびが大好きです。お米があまくて一つぶ一つぶがキラキラでとてもやさしいおむすびです。

ぼくが小さい時に、カゼを引いてお父さんお母さんがしごとだったから、「今日は一日おばあちゃん家ね。」おむかえるまでがんばるんだよ。」とお母さんが言いました。

ぼくはすこしふあんな気持ちだったけど、

「うん。わかったよ。」と答えました。

お母さんとおばあちゃん家につくと、へやにふとんがしいてありました。おばあちゃんが「怜くんよこになってなさい。」とやさしく声をかけてくれたのでぼくはねてました。お母さんもしごとに行って、ぼくもねつがあったからねてました。するとおばあちゃんが心ぱいそうによってきて、「ジュースのむ、おかし食べる。」と聞いてきました。ぼくは何も食べたくなかったから「いらないよ。」と言いました。おばあちゃんは「わかったよ。すぐに元気になるおいしい物を作ってくるからまっててね。」と言ってへやからでていきました。

しばらくすると、おばあちゃんが来て「おまたせ。」と言ったので、ぼくはおきてみたら目の前にキラキラした白いおむすびがありました。「なにこれ。」と聞くと「おむすびだよ。元気が出るから食べて。」と言いました。

ぼくはパクリと一口食べました。さっきまで何も食べたくなかったけど、甘くてふわふわでとってもおいしくてすぐに一つ食べました。おばあちゃんは「ほらね。おいしいでしょ。」ぼくは「なんでこんなにおいしいの。」と聞きながら二つ目を食べはじめました。

「それはね。早く元気になってねと心をこめてにぎったおむすびだからだよ。」と言いました。なんだか元気になってきて、「おいしいからカゼじゃない時も作ってね。」とおねがいしました。おばあちゃんは「はい。わかりました。」と言ってニコニコしていました。